862
119
1

志州鳥羽船頭小平次難風吹流帰國之次第

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽船頭小平次難風吹流帰国之次第』　請求記号 862-1

ガラス使用

25 531

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽船頭小平次難風吹流帰国之次第』　請求記号 862-1

ガラス使用

志州鳥羽船頭小平次難風吹流帰国之次第

862
119
1

19

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽船頭小平次難風吹流帰国之次第』 請求記号 862-1

ガラス使用

862-1
(19)

領主志州答形橋掛津守殿

志州答形橋掛津守殿領主小平次宝暦七丑九月廿
風ニ而吹流され史右福列并南京ゟ宝暦九卯四月
長崎江着仕同年七月答形掛津守殿江差上候ニ付
書付を以申上候

志州鳥羽船頭小平次外六人乗し私之大坂ゟ
答形掛津守殿江差上候ニ付大風強差而
荷物ハ不申積仕候ニ付海上ニ而六人吉列大風強差而
今年ニ而ハ六月九月十五日ニ東寅ノ刻ゟ大西風吹
中ニ而何方共なく吹流され翌年五月ニ日ニ而

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽船頭小平次難風吹流帰国之次第』　請求記号 862-1
ガラス使用

雲斗りも走り、籟ご覚ぬ中ゞ日
究竟者り中ゞ甚四わご苦り大き被流小湾ヲ古ヶ不
成も都尺中ゞ日も形社ゞ右手有め、泥と泊との
取扱ゞ礼ご多ま私海演ご射ゞ風義ゞ何ゞ疑
被死ゞ中ゞ甚苦ご二来明ご中ゞ日神稼を洋中ゞ不
来し九ゞ前ゞ東方一面赤く被ゞ如く来明前ゞ来ゞ
赤く被日輪稼し大ゞ寸高生し山より大きゞ被、
中ゞ日神稼と海と金輪ゞ離れゞ如ゞ人形も
見へゞ籟ご被中ゞ拝ゞ多ゞ方ヲ中ゞ日神稼ゞ
七ゞ時ゞ比ゞ覚ぬ中ゞ時ゞ也ゞ日輪稼ゞ海ゞ中ゞ
中ゞ右ご西被指中門又東風吹ゞ如ゞ右ご古義ゞ
ゞ礼ゞ南京ご才ゞ流ゞ礼ゞ事四十有ゞ日ゞ
ゞ一日義海見へゞ日ゞ和被ゞ
礼を被ゞ指ゞ日多ゞ被ゞ雲ゞ折ゞ見へ中ゞ
御代一日義日雲指ゞ中ゞ毎日ゞ日輪稼を洋ご
中ゞ文ゞ南風吹中ゞ方ヲ小ゞご流礼
中ゞ甚ゞ日ゞ神義ゞ永ゞ西ゞ
ゞ中ゞ方ヲ海見へゞ

白砂糖を積中より取出し
六人へ配り喜悦す者歟人水ノ
神佛を祈事おびたゝし
数日霧雨ふり松明も
消ん事を歎ク事三十日
来ル頃迄ニ漸ク
雨やみ空晴ル
ゆへ船中より
松帆を上ル
松須乃ら四人播枚(ハラカタ)ニ
腰ニまたがり右ニ伝乗乃を
又のんどをかゝて
何ほどよりも
何乃ゝ清水を呑飲中より右八人ゝ者
番ニ
家乃

入烏先キにて焼キ候て申候得ハ梅ハ着物をかし
着せ申候鉢之卯体ハ致物ニて遣し被下候つく
暇致物にて遣し甚上菓子之様成物を呉申候
氷喰申候甚門ニ右之者海まで八町ばかりうち
已り行を好きニ売申候右之無頭居申候門下之
記纔美希と思敷者四五人卯之百姓之様成者
百四五拾人ニ家ニ頭巾又ハ小笠をかぶり何
連歳足を洗之様成物ニ包着物歳ハ洗て遣し
其門ニ記纔美希と思敷者ハがんぜき之様成物

をまき申候 記纔美希と思敷者四五人
寄合何と哉らん申候目録と書て閲覧申候
う多洗ひ申候又真字ニ而書閲覧之様之読ニ
参申候甚結構ニ御座候様子ニ而稲穂ニ人計有之乱
逸し備切を取之人計切申候而何とやら書申て
作哉稲居申候家之門へ立させ初来んば八人
之者共を呼禍右奥人へ申候哉参合して
元私へ書入と斗禍右奥人へ申候私共ハ十五人
計之人を呼ヶ渡之着物を元右之者ニ入

柳こう蔵病し右平多人ら者私共四人ら
せるをさそう呂ら国を喰セ中ル湯
を天竺央ゞ而て中ル赤門日支着しるる
汲し蕃国し松ゟ有ゝそ大サ八尺四方社祭
杉たを包ル中ル私共二包り
男松とふるや夜中松の木を焼キ私共
し以をさそう呂ら海中ゞ百余日社流れ
ゟ南東事蔵無ク小流れ行中ル月長サ

非人斗社ゟ奥仙社と云ふ事蔵なく私を
元ゟ宝ゟ蛙ゟ対ル松、私共中ル日一日ル
庭ル梅又南海ゟ中ゞ蓮ゟ宗の松蔵長サ
四方斗ゟ葉ゟ大ゟ花ゟ蓮池ゟ如ク海
蔵蔵又南海ゞ私国人中ル海
者故ゟ夜四晩蔵蔵又大サ二軒餐
社ゟ通ゟ私ゟ故ゟ事蔵ゟ
中ゞ海私と思ゟ者ゟ多ク上二十四斗蔵ゟ
迎ひ来ル而ゟ者ゟ事蔵

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽船頭小平次難風吹流帰国之次第』　請求記号 862-1
ガラス使用

無御座候右之通一夜明ニ相成翌日又此所美寿と
申す者子六人百姓ニ相成候者弐拾人斗
有之扨右拾人之者ハ参申候而かゝ近郷村ニ住
居申候一ヶ村毎ニ国守を差置申候毎方ニ見物
人数多有之候而扨見候へハ申候畠田細成参
候米之本迄見候へ申候二尺余相之本太く出来候
能キ相成候而土ニ付肆之外黒く出来候又持参ニ
奇麗着之大きなる家居金銀出来候而極楽ハ如く
出来候て無之縁を老人上ニ波を越甚上和

然無之申候學ハ如之草暮をも張申候又ハ嵐也子
存子様種之出来候ては不右之国子と酒を造申候酒之
三年之間之ことく味何まく酔出来候而
余斗右入申候又酒之着成り申候元出来斗ニ
切ての之出来候ニ而難極楽ニて妹之所ニ多数
出来候而嗜之申候相慮別時御楼之像
殿ニ極楽今入之有而無大あ人候向三十人斗
連立候之人何候通之申候丈分
着ハ見立申ニ見え候日本と云を持

さし渡し壱人うなひ位の者、何尾ともなく中山道の様なる桟俵に横たへ、縄にて三ツ宛出し、其上へ筵を敷き、さく魚の如く重ね、四人にて持ち、其四人ずつ跡先に附き添ひ、大ぜい警固して、其上へ人数を乗せ、筵にて包み、縄にて結び、右俵ずつ、ずい分丈夫に荷ひ、三宿めに千国と云ふ駅へ着き、しばらく休息して、又々千国より大石子宮川迄荷ひ、

さし渡し壱人うなひ位の者、何尾ともなく中山道の様なる桟俵に横たへ、縄にて三ツ宛出し、其上へ筵を敷き、さく魚の如く重ね、四人にて持ち、其四人ずつ跡先に附き添ひ、大ぜい警固して、其上へ人数を乗せ、筵にて包み、縄にて結び、右俵ずつ、ずい分丈夫に荷ひ、三宿めに千国と云ふ駅へ着き、しばらく休息して、又々千国より大石子宮川迄荷ひ、

ここにて船中より更に荷所家法ごとを買ひ入れ、又々千国へ引き返し、それより川船にて、掛け場より切石と云ふ所迄漕ぎ下り、同所より又々荷ひ、西条村庄屋家二十町余を荷ひ、夫より谷一つ越して中土と云ふ処の関所を通り、東中村と云ふ処へ着き、夫より石船に乗り、三国川を漕ぎ下り、高田城下の外堀へ着き、夫より陸地を荷ひ、

ここにて船中より更に荷所家法ごとを買ひ入れ、又々千国へ引き返し、それより川船にて、掛け場より切石と云ふ所迄漕ぎ下り、同所より又々荷ひ、西条村庄屋家二十町余を荷ひ、夫より谷一つ越して中土と云ふ処の関所を通り、東中村と云ふ処へ着き、夫より石船に乗り、三国川を漕ぎ下り、高田城下の外堀へ着き、夫より陸地を荷ひ、

高田城下より半道程大町家二十町余を荷ひ、夫より又々舟に乗り、今町家にて荷物を下ろし、夫より又々荷ひ、今町家より半道程大町家二十町余を荷ひ、夫より又々舟に乗り、今町家にて荷物を下ろし、夫より又々荷ひ、

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽船頭小平次難風吹流帰国之次第』　請求記号 862-1
ガラス使用

耳そこへ第二番目に百人たいせなれし女房何とも
言し神の知ひやひまなく乱し板こ家のてうかん
歩行て私共四人ゞ百人ゞ人余死ゞ私共も乱中ゟ
けし女ゞ石と士とゟ拾九ゟ大門ゟ有しし女
を西ゟ東へ引ます〳〵同私ゟ大門ゟ出ゟ又金
襖し着物着ゟひ人ゞ女房ゟと当なゟ乱ゟ
幕し外ゟ女板ゟし跡ゟ長刀を持て跡ゟ
来被乱し後ゟ長刀かけすとゟ大ゟ遠中ゟ白刀

し人金魚ゟ言中〳〵切ゟいゟ女ゟとゟ同ん〳〵弟ゟけゟ
女又男女ゟ半出ゟ中ゟゟ三枚書物ゟ私弟ゟ
書物ゟ女ゟ古女孫ゟ三人ゟ前ゟ女教ゟて幕ゟを
指〳〵被し内ゟ百ゟ敵ゟ言被ゟて幕ゟを
落し出孫ゟ人ゟ同ん〳〵ゟ中ゟ女ゟ物ゟ下り
町家ゟ入ゟ孫ゟ女ゟ共ゟを当て二ゟ波ゟ毛槍
等ゟ変四方幕ゟを張ゟ内ゟ北ゟ住二汁ゟ
第二汁七菜ゟ被ゟ乱ゟ酒後一日三度宛ゟ
中ゟ乱ゟ初ゟ諸向ゟ拵被酒ゟ白ゟ年

壱石弐斗程酒役下々共え被下申候此度異船
え寛永通宝之銭を見せ申候毎々拝見
与申見候人やゟ出候与申覚候女中抔
入ゟ参り候而も参り候何事も御ひ被下申候而扱
逆遠仕候女中等ハ大形菓子抔被下置候扱
とも我壱人まかりあり被養申候目出とい遠ひ
下しハ別而御取扱与申候へ申候扱又此方四人
之内壱人儀申候而早速醫者六三人参り
被下御薬被載被寄病人も十人斗死

候段被参候得共海丈出ニ不
存候早申候葬礼義念入所申之大寺
送り其上私共義様々厚野遠り仕候和尚様一人
小僧衆二十人斗り御供被下候其後二十二日同所
出船を出致三日切之二十三日逢毎仕三十日ニ
此舟を離れ其後二十里斗り程子ニ参り又極
所之山迄子掛り五十日山路斗通り申候其後里子
出て城下ニ而通り申候此者見所
中大川此所河橋二里斗有之川原ニて

一
出帆して安才川幅三里余り出帆し川を越申候日ハ
病ニ中ニて暫く休足仕病も直り候ニ付
高キ凡三百計りニ波流出来り福建国申候所
總数川ニて出帆し夫より路川に而出帆し城下
迄下ニて出帆し平地へ参申候而七八十日程掛り夫ゟ
川ニ而福州へ着仕候所ニて又候世話相成り
申候此所ゟ指別々着之内者遠見申候同所
ニ而申候番ニて迄難義致申候
十月下旬南京出ハ着仕候ゟ福州府之城と

思ハれ候許大体小凡弐百畳計り築して其間ニ幾
しまつまりと凡人申候所ハ四百程御座候而道中
ニ大名之殿も出合申候日本と違ひ後長刀之
類を百家能付候之のほりを立笛と喇叭為
吹鳴指子ニ而行列之様子ハ申候其間夜様と
思ハしく人も遠ニ参候而やすらふて貴ニて
出帆して牛車ハ見え申候供之の者大勢参
ニ申候往来之町人ゟしき者猩猩海之類
様指出申候角馬驚遊ニ申候而ハ渡り出

此所ニ而於大船石ニ寄り申候額文字ニ書付
札ほり有之寺院　扨夫ゟ南方通り申候是ゟ二三日
程窟之内ニ逗留仕候当所之体直ニ付日本人多く有之
出船逗留仕候此中所ハ誠ニ似御座候神子ニ候
御座候高尾様方と見へて所ハ繁昌して相見へ
申候也何方之義御座候道中筋ニ
角圓成人形ノ出所ゟ自手南京申候高尾様
若見へ申候此中所ニ大船金物之着船ニ
着し其外ニ而ハ四角ニ而大キ成大船

一
荷物見届ニ而出船して夫ゟ南京まて道筋
川船ニ乗り候而出船して又済之上二里程も
参り申候何も義理有之諸様成船ニ而
出帆して南京ゟ其外へ広キ所ニ出帆して福州
之本之南京之城下へ入町家之内里計り
通り申候夫ゟ之ハ程ニ而城前一向見へ不申候
其外何成之發而ニ而出帆して寺其外大分出帆
相見へ申候
御座候西へ至る相中来り夫ゟ所町役人共来

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽船頭小平次難風吹流帰国之次第』　請求記号 862-1

ガラス使用

焼びらし、彼是て我
沢山ぶ来れ而ぶ我て悦ぶ
ぶに我ぶ、生ぶ酒ぶ食ぶ
生ぶ三合ぶ程ぶ我家ぶ
領ぶ、ぶ生ぶ三斗ぶ
拙ぶ我ぶ、酒ぶ
ぶいも、ぶ外ぶ草ぶ
主ぶ何ぶ食ぶ
是ぶ、賞ぶ来て
法酒ぶ仕ぶ外ぶ沢ぶ
三月十ぶ日ぶ南京ぶ着ぶ
舶ぶ外ぶ走ぶ
与ぶ中ぶ妻ぶ
芙蓉ぶ切ぶ
回ぶ、ぶ二月ぶ
好ぶ、妻ぶ
第ぶ、ぶ
南京ぶ

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽船頭小平次難風吹流帰国之次第』 請求記号 862-1
ガラス使用

舞を初め或は琴をひき又は
ふまを為又は神を祈
念を勧め追て出ことを
三十二十斗り或は七八日
等

日神祟を現し為に招て
祈り元日より別て右神佛を信心仕為に
し事ありて三ヶ日いこを指留
置て二日三日礼いに
参り

春こと外一切の大物の中より元日三ヶ日之間
を離食ことして出ず三ヶ日の内ハ酒を出ず中より食
ハ仏前ニ而粥を喰ひ四日より食ことく
ふるまひ寺参りをも致ことを
ゆるし又は二月三日の
福まき有来り同人家内中
未ダ其外村方にも悪病
流行ニ付

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽船頭小平次難風吹流帰国之次第』　請求記号 862-1
ガラス使用

一　南京出船之儀ハ寺町方ゟ銀之板金ハ字
を彫付者志んちうれくこん志んくわ（?）
を付三人之者ハ其下肩掛ケ申候使者切手ニ
相済申候

一　右之板金長崎奉行所へ納メ候而相詰居候者共
者ゟ白銀二枚宛被下置候、且南京出船之
儀ハ唐人共酒盛ニ而遣ひ申候、證之ハ餞別
として毛氈并小刀并船菓子甚外色々
被下候而船ハ入候様申候唐人共女中方とも

離れかたく存しかなしき事ニ候船見送りかたく存しく候
こかれ申候

一　長崎ハ八月廿（?）日出船ニ而先規之通役所へ罷出
候処白洲（?）ニ居候而猶又御渡被下候永道中
成就（?）御奉行所ゟ御手當（?）被下置候人足御作し付
不殘嘉賞（?）被下金子ニ仕合ニ存申候

右御吟味被成候ニ付荒増之次第書付申上候以上

862
1

寛厩九年
卯四月

布施田浦
松須小平次

周代吉方遠夜
年寄彼岸清夜

天明三卯正月写し

特野冨之助

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽船頭小平次難風吹流帰国之次第』　請求記号 862-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽船頭小平次難風吹流帰国之次第』 請求記号 862-1

ガラス使用

862
179
1

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽船頭小平次難風吹流帰国之次第』 請求記号 862-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽船頭小平次難風吹流帰国之次第』 請求記号 862-1

ガラス使用